

フューチャー・バイオテック

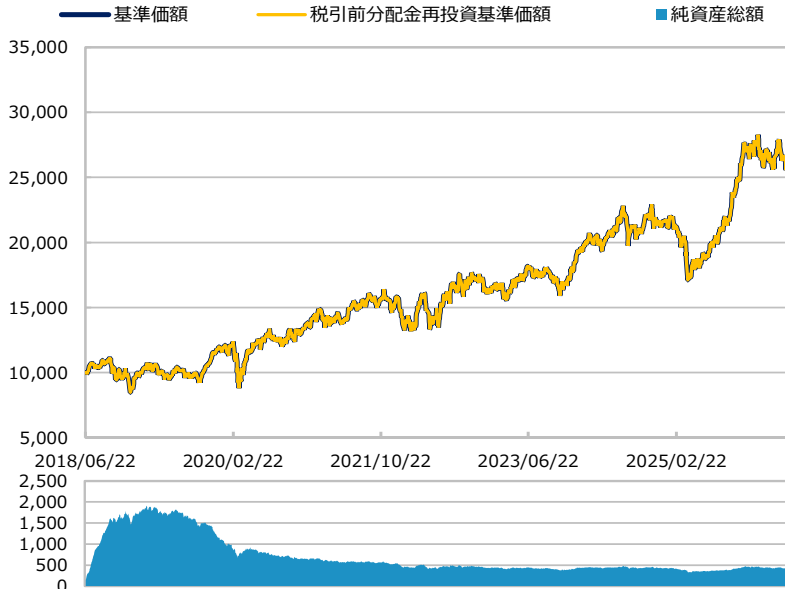
追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

ファンド設定日：2018年06月25日

日経新聞掲載名：Fバイオテク

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	26,721	+203
純資産総額（百万円）	42,498	-186

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1 カ月	2026/04/30	0.8
3 カ月	2026/02/27	-0.4
6 カ月	2025/11/28	-3.3
1 年	2025/05/30	45.6
3 年	2023/05/31	56.6
設定来	2018/06/25	167.2

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第3期	2021/06/25	0
第4期	2022/06/27	0
第5期	2023/06/26	0
第6期	2024/06/25	0
第7期	2025/06/25	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
バイオ関連株式ファンド	70.3	-1.5
医療機器関連株式ファンド	28.2	+0.8
現金等	1.4	+0.6
合計	100.0	0.0

- ※ バイオ関連株式ファンドの正式名称は「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（Sクラス、円建て）」です。
- ※ 医療機器関連株式ファンドの正式名称は「フィデリティ世界医療機器関連株ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」です。

基準価額の変動要因（円）

	寄与額
バイオ関連株式ファンド	+497
医療機器関連株式ファンド	-268
分配金	0
その他	-26
合計	+203

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
 ※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

ファンドマネージャーコメント

<全体コメント>

5月の当ファンドの基準価額は上昇しました。

米国株式市場は上昇しました。米国とイランの停戦状態継続やトランプ大統領の訪中を受けた地政学リスクの緩和期待、企業業績面でのAI関連市場に対する成長期待などが引き続き株式市場の支援材料となりました。月後半には、原油価格が下落し、長期金利が低下に転じるなか、エヌビディアが好決算を発表したことなどから半導体などの関連銘柄を中心に一段高となりました。

欧州株式市場は上昇しました。中東情勢に加えてエネルギー価格の安定化期待が支援材料となりました。米国同様にAI関連市場の成長期待からIT関連銘柄が主導する動きとなりました。一方でイギリスは、政治基盤の不安定化懸念などから、上値が重くなる局面もみられました。

月を通してみれば、バイオテクノロジー関連銘柄は上昇しましたが、医療機器関連銘柄は下落しました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



フューチャー・バイোটック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

※ このページは「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（Sクラス、円建て）」について、カンドリアム・エス・シー・エーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	99.3	+1.8
先物等	0.0	0.0
現金等	0.7	-1.8
合計	100.0	0.0

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 アメリカ	82.1	+2.2
2 デンマーク	3.7	-1.0
3 ベルギー	3.2	+0.2
4 ドイツ	2.7	-0.1
5 中国	1.9	-0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	組入投資信託
1か月	2026/04/30	2.7
3か月	2026/02/27	3.8
6か月	2025/11/28	5.4
1年	2025/05/30	76.8
3年	2023/05/31	92.8
設定来	2018/06/25	243.9

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	94.9	+1.6
2 ユーロ	3.1	-0.4
3 デンマーク クローネ	1.5	-1.2
4 スイス フラン	0.4	-0.0
5 日本円	0.0	-0.0

※ 組入投資信託の騰落率は、ファンドの騰落率と整合を図るため、原則として基準日前日の数値を基に算出しています。

※ 円ベースの騰落率です。

組入上位5業種（％）

	当月末	前月比
1 医薬品・バイオテクノロジー	99.3	+1.8

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 74）

銘柄	国・地域	業種	比率
1 バーテックス・ファーマシューティカルズ	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	4.2
2 ギリアド・サイエンシズ	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	4.1
3 アルナイラム・ファーマシューティカルズ	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	4.0
4 バイオジェン	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	3.6
5 アムジェン	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	3.5
6 レボリューション・メディシナズ	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	3.1
7 リジエネロン・ファーマシューティカルズ	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	3.1
8 ロイバント・サイエンシズ	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	2.9
9 インスメッド	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	2.4
10 アセンディス・ファーマ	デンマーク	医薬品・バイオテクノロジー	2.3

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



フューチャー・バイোটック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

※ このページは「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（Sクラス、円建て）」について、カンドリアム・エス・シー・エーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

世界株式市場は、企業業績の底堅さ、政策を巡る懸念の後退、投資家のリスク選好の改善、ならびにAI関連投資テーマへの継続的な期待を背景に、引き続き堅調なパフォーマンスを示しました。

ヘルスケアセクターはプラスのリターンを確保したものの、投資家資金が他のセクターへシフトしたことから、市場全体に対しては相対的に出遅れる展開となりました。

バイオテクノロジーセクターは総じて堅調に推移した一方で、銘柄間で明暗が分かれる展開となりました。同セクターは、継続的な臨床試験関連のニュースフローに加え、ASCO（米国臨床腫瘍学会）を前に質の高いオンコロジー資産への関心が高まったこと、さらに優れた臨床データを有する企業が引き続き良好な条件で資金調達できていることなどから恩恵を受けました。

一方で、臨床試験結果の失望、競争が激化している治療領域、あるいは事業の商業化移行期や政策リスクへのエクスポージャーによって不透明感が生じている企業に対しては、市場は厳しい評価を続けました。その結果、銘柄間のパフォーマンス格差は引き続き大きく、セクター全体の値動きよりも、個別企業における臨床開発や規制関連の進展が株価リターンを左右する展開となりました。

＜運用状況＞

当ファンドは、プラスの絶対リターンを確保しましたが、ナスダック・バイオテクノロジーインデックスに対してはアンダーパフォームしました。

プラス寄与銘柄の中では、アルカームスが堅調に推移しました。同社は第1四半期決算において良好な業績を発表し、既存商品の持続的な収益力に加え、最近買収した睡眠障害治療事業の収益貢献に対する市場の信頼が高まりました。ニューロクライン・バイオサイエンスもプラスに寄与しました。同社は主力製品であるイングレッツァやクレネシティの需要拡大を背景に、第1四半期の売上は好調でした。また、レボリューション・メディシズも膀胱がん治療への期待が高まり、主要なプラス寄与銘柄となりました。同社が発表したフェーズ3の臨床結果に加え、今後予定されている規制当局への申請計画を受けて、同社の薬剤は治療選択肢の限られた膀胱がん領域において重要な治療薬となるとの見方が強まりました。

一方で、マイナス寄与銘柄ではインスメッドが挙げられます。業績自体は良好であったものの、市場の高い期待に十分に応える内容とはならなかったことが株価の重しとなりました。また、リジェネロン・ファーマシューティカルズも軟調な推移となりました。同社は第1四半期に堅調な業績を報告したものの、投資家の関心は引き続き主力製品アイリアの移行戦略に向けられていました。さらに、悪性黒色腫治療薬のフェーズ3において、

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

※ このページは「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（Sクラス、円建て）」について、カンドリアム・エス・シー・イーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ファンドマネージャーコメント

併用療法が主要評価項目である無増悪生存期間で統計学的有意差を達成できなかったことも株価の下押し要因となりました。オルカ・セラピューティクスも下落しました。同社は乾癬を対象とした有望な臨床データを発表したものの、市場ではそれまでの大幅な株価上昇に対する利益確定売りに加え、最近実施した資金調達や、次の重要な開発後期段階の臨床結果発表までに時間を要する点が意識され、株価は軟調に推移しました。

＜見通しと方針＞

当セクターに対しては引き続き前向きな見方を維持しています。5月の市場動向は、優れた臨床データ、明確な規制当局への承認見通し、そして確かな商業化の可能性や戦略的価値を有する企業に資金が引き続き集中していることを改めて示しました。一方で市場は、結果が不透明な案件や競争が激しい領域に属する企業に対して、以前にも増して厳しい評価を下す傾向を強めています。

今後については、臨床試験結果の発表、規制当局による重要な判断、ならびに事業開発やM&A（企業の合併・買収）関連の動向が投資家心理を左右する主要な要因になると考えています。資金調達環境は引き続き、差別化された投資ストーリーを有する企業に対して良好な状態が維持されており、大手企業による戦略的な投資・買収ニーズも、革新的な医薬品資産を支える重要な追い風となっています。

一方で、医薬品価格政策、関税政策、ならびに規制運営の一貫性を巡る不透明感は、今後も断続的な市場変動要因となる可能性があります。そのような環境下において、当ファンドは引き続き、明確に差別化された臨床データを有し、信頼性の高い開発戦略を備え、さらに今後の重要な開発イベントや事業上のマイルストーンに対応できる十分な財務基盤を有する企業を選好しています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



フューチャー・バイোটック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

※ このページは「フィデリティ世界医療機器関連株ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」について、フィデリティ投信株式会社から提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

※ このページに記載されている情報は、「騰落率（税引前分配金再投資）」以外はすべて作成基準日の前月末におけるデータとなります。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	96.8	-0.8
先物等	0.0	0.0
現金等	3.2	+0.8
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	組入投資信託
1か月	2026/04/30	-3.7
3か月	2026/02/27	-10.0
6か月	2025/11/28	-21.3
1年	2025/05/30	-6.9
3年	2023/05/31	4.8
設定来	2018/06/25	102.0

※ 組入投資信託の騰落率は、ファンドの騰落率と整合を図るため、原則として基準日前日の数値を基に算出しています。

※ 円ベースの騰落率です。

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 アメリカ	94.0	-0.6
2 フランス	1.4	-0.2
3 日本	0.8	+0.0
4 バミューダ	0.6	+0.0

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	97.8	+0.2
2 ユーロ	1.4	-0.2
3 日本円	0.7	-0.1
4 オーストラリアドル	0.0	-0.0

組入上位5業種（％）

	当月末	前月比
1 医薬品・バイオテクノロジー	49.9	+5.6
2 ヘルスケア機器・サービス	46.9	-6.4

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 41）

銘柄	国・地域	業種	比率
1 ダナハー	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	15.0
2 サーマフィッシャーサイエンティフィック	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	13.3
3 インテリティブサージカル	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	8.9
4 ポストン・サイエンティフィック	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	6.6
5 ストライカー	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	4.8
6 アボットラボラトリーズ	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	4.7
7 エドワーズライフサイエンス	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	4.6
8 バイオテクネ	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	2.5
9 ウェスト・ファーマシューティカル・サービス	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	2.5
10 メドライン	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	2.2

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

※ このページは「フィデリティ世界医療機器関連株ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」について、フィデリティ投信株式会社から提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

当月の世界医療機器関連株式は下落しました。月前半は、米金利の上昇やインフレ再加速への警戒感を背景に、成長期待が株価に反映されやすい医療機器関連株に売りが広がり、軟調に推移しました。中旬は、買い戻しが入り、持ち直す場面がみられました。一方、月後半にかけては、金利の高止まりに対する警戒感が高まり、再び上値の重い展開となりました。月を通して世界医療機器関連株式は下落しました。

＜運用状況＞

心血管機器を手掛ける医療機器メーカーは、四半期決算の強弱入り混じる業績発表が重しとなり、4月下旬からの株価下落基調が継続したことから、マイナスに寄与しました。一方、血液ベースの診断を主力とする企業は、新たな治療選択検査についてFDA（米国食品医薬品局）の承認を取得したと発表したことを受け、収益への寄与拡大期待から株価が5月後半に上昇し、プラスに寄与しました。

＜市場見通しと今後の運用方針＞

医療機器関連セクターは、先進国の高齢化や新興国の所得向上に伴う医療需要の拡大に加え、医療の高度化、効率化、デジタル化といった構造的かつ長期的な成長要因に支えられています。こうした背景から、中長期的な医療機器関連企業の事業環境は底堅いと考えられます。一方で、米国の関税政策や中東情勢を巡る不確実性、米金利の高止まりは、企業の業績や株式市場での評価に影響を与える可能性があります。今後も徹底した個別企業調査を実施し、成長性や企業価値が市場で正しく評価されておらず、株価の成長余力があると判断される銘柄に選別投資する方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

ファンドの特色

- 主として、世界のバイオテクノロジーおよび医療機器関連企業の株式に投資します。
 - ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。
 - * バイオテクノロジー関連企業とは
生命工学技術を応用して医薬品の開発を行うバイオテクノロジー企業の他、遺伝子検査や科学・実験機器関連の企業などを指します。創業期など初期のステージにある企業から安定的な成長を確立した企業の株式まで幅広く投資を行います。
 - * 医療機器関連企業とは
医療関連の機器、設備、技術等を提供する企業を指します。
 - 実質的な運用はカンドリアム・エス・シー・エーとFIAM LLCの2社が行います。
 - バイオテクノロジー関連企業の株式への投資は、カンドリアム・エス・シー・エーが運用する「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（スクラス、円建て）」を通じて行います。
 - 医療機器関連企業の株式への投資は、FIAM LLCが実質的に運用する「フィデリティ世界医療機器関連株ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」を通じて行います。
 - バイオテクノロジー関連企業の株式、医療機器関連企業の株式への投資割合は、概ね7：3を基本とします。
 - 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

投資リスク

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定の業種・テーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該業種・テーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2018年6月25日設定）

決算日

毎年6月25日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- ルクセンブルクの銀行の休業日
- ルクセンブルクの銀行の休業日の前営業日
- ニューヨークの銀行の休業日
- ニューヨークの取引所の休業日

フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30%（税抜き3.00%）を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年1.232%（税抜き1.12%）**の率を乗じた額です。
※投資対象とする投資信託の運用管理費用を含めた場合、**年1.97874%（税抜き1.8434%）程度**となります。ただし、投資対象とする投資信託の運用管理費用は、料率が把握できる費用の合計であり、上記以外の費用がかかる場合があります。また、年間最低報酬額や取引ごとにかかる費用等が定められている場合があるため、純資産総額の規模や取引頻度等によっては、上記の料率を上回る場合があります。
上記の料率は、2026年1月末現在で知り得る情報に基づくものであり、今後、変更される場合があります。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	日本S T O 協会	備考
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3283号	○	○	○			
S M B C 日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○	○	
株式会社 S B I 証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○	○	
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○		※1
香川証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長（金商）第3号	○					
木村証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第6号	○					
G M O クリック証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第77号	○			○		
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第8号	○					
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○	○	
とちぎん T T 証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第32号	○					
南都まほろば証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第25号	○					
播陽証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第29号	○					
ほくほく T T 証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第24号	○					
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○	○	
三菱 U F J e スマート証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○	○	
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第105号	○	○				
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	○	
株式会社あいち銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第12号	○			○		
株式会社イオン銀行（仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○					※2
株式会社 S B I 新生銀行（S B I 証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※1 ※3
株式会社 S B I 新生銀行（マネックス証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※1 ※2
株式会社愛媛銀行	登録金融機関 四国財務局長（登金）第6号	○					
株式会社名古屋銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第19号	○					
株式会社福島銀行	登録金融機関 東北財務局長（登金）第18号	○					
P a y P a y 銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長（登金）第624号	○			○		
株式会社三井住友銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第54号	○	○		○		

備考欄について

※1：ネット専用 ※2：委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社 ※3：委託金融商品取引業者 株式会社 S B I 証券

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



フューチャー・バイオテック

追加型投信／内外／株式

作成基準日：2026年05月29日

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

